

1 . 流 域 の 変 遷

1-1 留萌川の歴史と由来

留萌川は、アイヌ語で「ルルモッペ」(静かなる川)を意味し、語源の由来は「此川潮汐 溯ること数里、水流ために遅し、故に此名あり。」と言われている。このルルモッペ(留萌川)は、その流域すべてが留萌市の行政区域に含まれており、それゆえ留萌市の発展過程と留萌川の関わりは大きいものがある。

留萌は、松前藩が江戸慶長年間にアイヌとの交易の場としての知行地を置いたことに始まった。また、明治以降は、中上流部は政府直轄地である御料地として開け、下流河口地区は北部日本海漁業の基地として発展してきた。この産業の発展を支えてきたのは港であったが、近隣港と異なるのは、留萌川を利用したことである。つまり、河口を深く遡っての陸揚げが可能であり、陸上交通機関の未整備なこの時代には有効的なものであった。

当時の留萌川は、その蛇行も著しく、水の流れが遅いため、大和田、幌糠と溯り、チバベリからは陸路として内陸への物資輸送を行ったのである。

明治 29 年の藤山農場の開設、明治 31 年の御料地解放等により、移民の入植が進むにつれて道路らしきものが整備されたが、明治 43 年に鉄道が開通するまでは、留萌川は重要な交通手段として利用されていた。

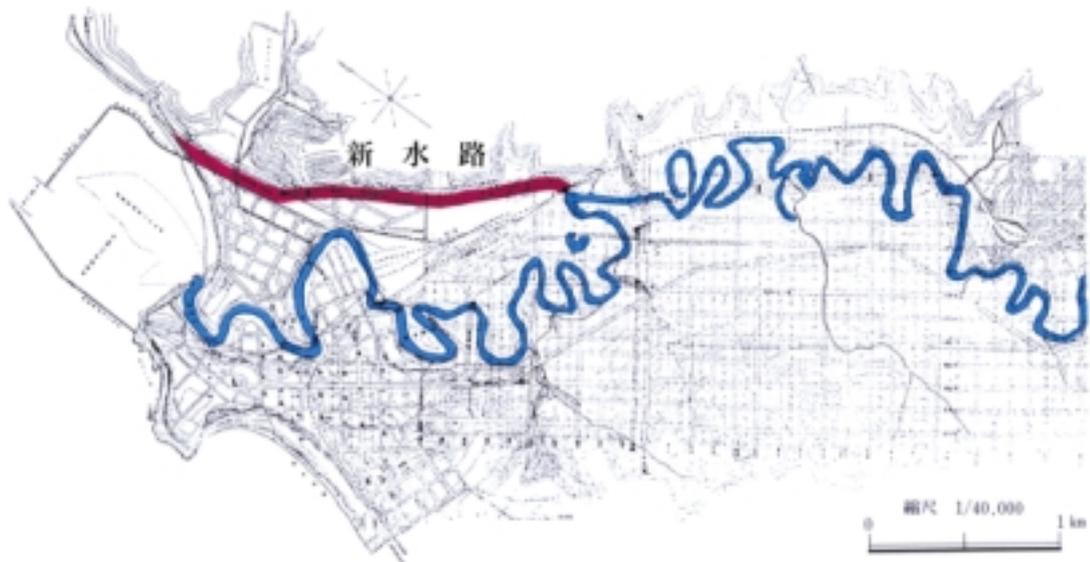
また、入植が進むにつれ、留萌川の水はかんがい用水としての利用へと、その役割は変化を遂げた。

その後、鉄道開通による物資輸送が盛んとなり、内陸の石炭等を港から輸送するため、留萌港の機能拡充を図る必要が生じた。そのため、留萌港修築工事の一環として、下流市街部を大蛇行して流れていた留萌川を大正 6 年から大正 12 年にかけて新水路を開削し、留萌港を通さずに直接日本海へ流すことにしたのである。

また、この旧川が埋め立てられ、商用地や宅地として供給されたことで、留萌市発展の骨格が形成された。



留萌港築港前における留萌川とその附近(留萌港要覧より 昭和8年8月北海道庁河港課発行)



留萌町事業計画一般図(大正初期)

図 - 1 大正初期の留萌川河口部

このように、留萌川が流域住民の生活や文化に与えた影響はもとより、留萌市が北海道北西部の中核都市であることから、周辺圏域の歴史や産業、経済に与える影響は大きい。

また、近年においては、資産の増大、産業の発展はもとより、重要港湾留萌港整備による民間フェリーの誘致や高規格幹線道路の建設に見られるように流域内の社会資本の整備が進められるにつれ、周辺圏域から見ても本流域の重要度は高まりつつある。

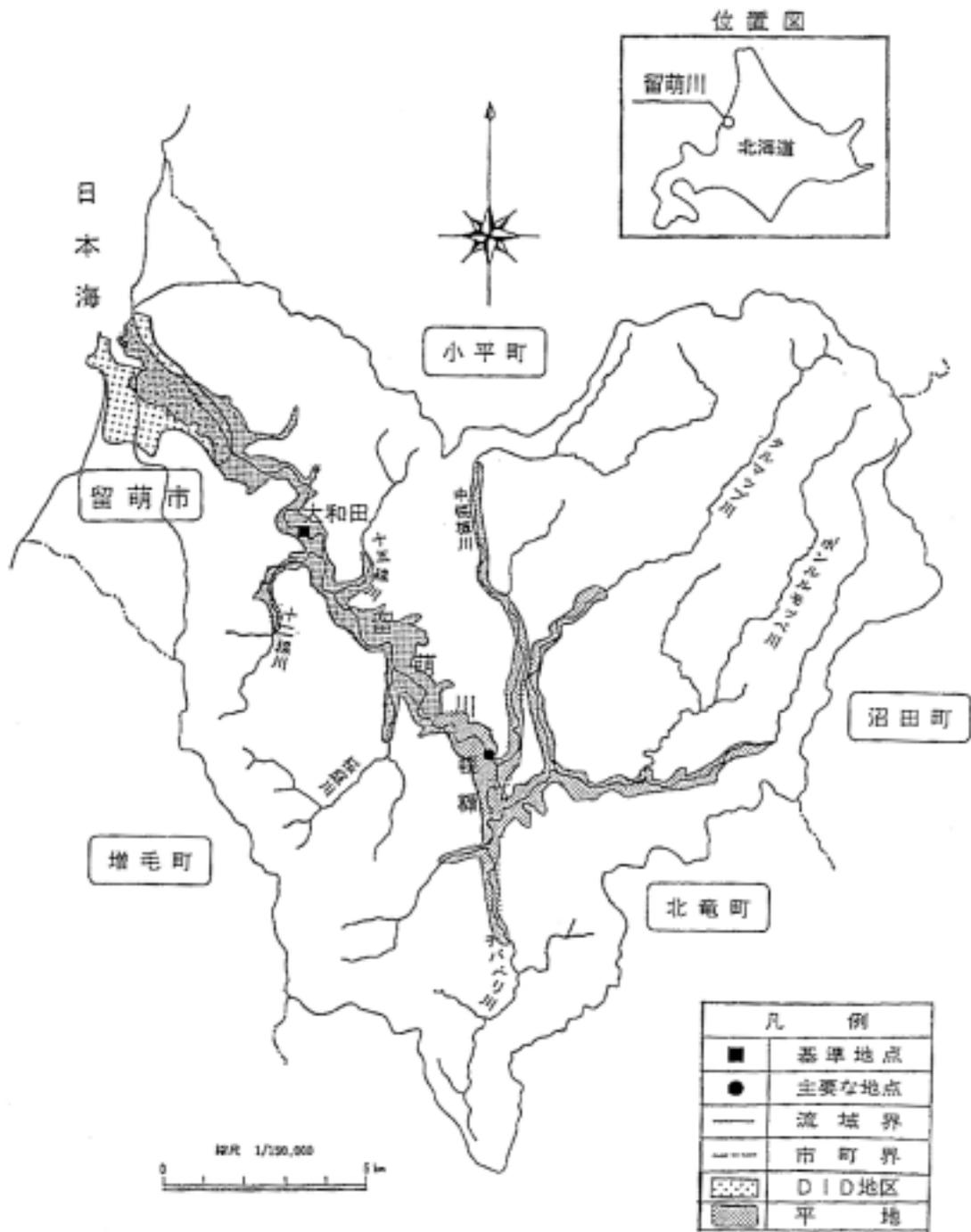


图-2 留萌川水系流域图

表 - 1 流域の歴史

西 暦	年 号	留 萌 川 の あ ゆ み	西 暦	年 号	留 萌 市 の あ ゆ み
			1596	慶 長	「ルルモッペ場所」開設。
			~		
			1614		
			1634	寛永 11	松前景広「ルルモッペ場所」の知行主となる。
			1750	寛延 3	初代村山伝兵衛「ルルモッペ場所」の請負人となる。
			1779	安永 8	松前藩藩主の直領地となる。
			1787	天明 7	六代栖原角兵衛が請負人となる。
			1807	文化 4	「ルルモッペ場所」を含む西蝦夷が幕府の直轄となる。
			1821	文政 4	西蝦夷が松前藩の直轄となる。
			1846	弘化 3	松浦武四郎、この沿岸を巡察する。
			1859	安政 6	「ルルモッペ場所」が庄内藩の領地となる。
			1868	明治元	庄内藩、政変のため移住者全員引き揚げる。
			1869	2	ルルモッペを“留萌(るもえ)”と命名。
			1873	6	宗谷支庁を留萌に移し、留萌支庁となる。
1875	明治 8	留萌川河口に村有志で仮橋。	1874	7	留萌郡戸長役場を設置。
			1875	8	郵便事務を開始、郵便局を設置。
			1880	13	留萌外 5 郡役所が開庁。
1882	15	留萌川に渡船場を設ける。	1889	22	定期航路船、初めて入港。
			1896	29	鳥取より原野(5~8線)に入植する。 藤山農場に北陸地方から団体入植始まる。
			1901	34	留萌・妹背牛間の道路開通。

「ルルモッペ場所」：蝦夷地を統治していた藩政時代の地方の呼び名で、留萌を指す。

西 曆	年 号	留 萌 川 の あ ゆ み	西 曆	年 号	留 萌 市 の あ ゆ み
1917	大正 6	河川新水路工事に着手。	1902	35	留萌村に2級町村制施行。
			1905	38	大和田で石炭採掘始まる。
			1907	40	留萌村に1級町村制施行。
			1908	41	町制施行、留萌町となる。
			1910	43	留萌港築港工事に着手。 留萌・深川間の鉄道開通。
			1919	大正 8	官庁が増毛町から留萌町に移動。
			1921	10	留萌・増毛間の鉄道開通。
			1922	11	河川新水路通水。
			1923	12	河川新水路工事完了。
			1929	昭和 4	川北右岸切替工事着工。
1939	14	7月、前線による洪水。	1931	6	留萌港築港工事完了。
			1932	7	留萌・羽幌間の鉄道開通。
1947	22	8月、低気圧による洪水。	1936	11	留萌港国際貿易港に指定される。
1951	26	8～9月、前線を伴う低気圧による洪水。	1947	22	市政施行、留萌市となる。
			1948	23	留萌・函館・大阪・博多を結ぶ 裏日本定期航路開設される。
1953	28	7～8月、前線による洪水。	1951	26	留萌開発建設部が独立設置。 港湾整備計画を実施。
			1952	27	留萌港、重要港湾に指定される。
1955	30	7月、低気圧による洪水、 8月、前線による洪水	1955	30	留萌川改修工事促進期成会出来る。
1956	31	下流市街部の改修工事に着工。 (直轄事業着手)	1959	34	大和田炭鉱閉山。